

今月の特集関連本



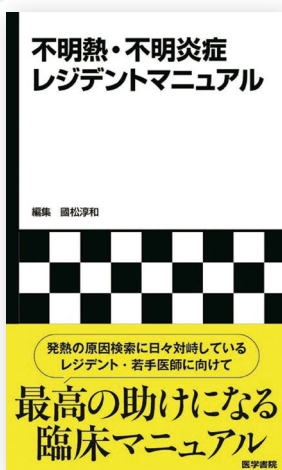
総合診療の視点で診る不定愁訴

患者中心の医療の方法

加藤光樹＝編

定価 5,170 円／A5 判・272 頁／日本医事新報社／2020

本特集にて「MUS の診方」(p.1304)をご解説いただいた加藤光樹先生の手になる本書は、不定愁訴の「診断と治療」「マネジメント」「クリニカルシナリオ」の3章で構成。医学的な診断がつこうがつくまいが「医師が患者に提供すべきケア」について、医師の科学者の側面だけではなく、「人を癒す」という側面に光を当てた。器質的疾患との区別、よく訴えられる症状から女性特有の問題、漢方治療、医師自身の陰性感情への対応まで網羅し、不定愁訴の診療が実際にどのように展開されていくかを解説した。



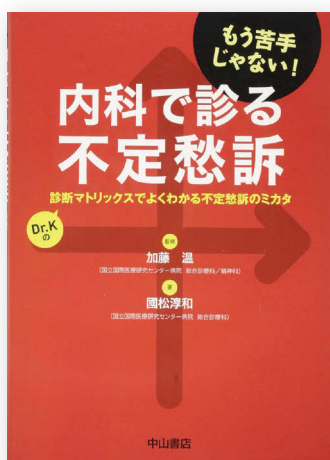
《シリーズレジデントマニュアル》

不明熱・不明炎症レジデントマニュアル

國松淳和＝編

定価 4,950 円／B6 変判・498 頁／医学書院／2020

本特集において「MUS と器質的疾患」(p.1307)をご解説いただいた國松淳和先生の手になる1冊。発熱の原因検索に日々対峙しているレジデントに向け、「絶対に熱源を得ることを諦めない」という気概で日々診療を行っている執筆陣の考え方と実践を詰め込んだ。総論では、不明熱・不明炎症診療に関する病歴聴取・身体診察・臨床検査の基本を押さえ、各論では「不明熱にしてはいけない疾患」「“不明熱的”と認識した後の初動～次の1週間を何をするか」「入院患者のよくわからない発熱（感染性、非感染性）」という切り口で解説。



内科で診る不定愁訴

診断マトリックスでよくわかる不定愁訴のミカタ

加藤 温＝監修

國松淳和＝著

定価 3,520 円／A5 判・172 頁／中山書店／2014

「それ本当に不定愁訴ですか?」。一見、器質的な異常がないようにみえる患者さんを“不定愁訴”にして他科に送る前に、もう一度本当に器質的疾患がないか、よく診てみよう。不定愁訴と間違いがちで、わかりにくい内科疾患の鑑別方法を、診断マトリックスなど、著者オリジナルの手法で鑑別する診断技術のエッセンスが詰まっている。同上・國松淳和先生による初期の重要な1冊。